

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2693200012		
法人名	医療法人・健和会		
事業所名	グループホーム ふれあいの里京田辺		
所在地	京都府京田辺市宮津池ノ内36		
自己評価作成日	2017年10月15日	評価結果市町村受理日	平成30年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JizyosvoCd=2693200012-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JizyosvoCd=2693200012-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	平成29年11月22日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当グループホームでは、できる限り利用者のペースでくらしさせていただきたいと願って関わっています。利用者の皆様は高齢になられ、いつの間にか自らしたい事をされる方は、2名だけになられました。他の方は何らかの声かけが必要で生活全般を組み立てて関わる必要があります。又、家族様も高齢になられ病気をされたり、体をご不自由にされたりと変化されております。そんな中でご利用者様の暮らしは、安全で楽しく安心した暮らしである事がご家族様の満足、安心に繋がると考え日々関わっています。ご利用者様の体調の変化の時には、家族様の心の負担が少なくなるように、コミュニケーションを多くして家族の気持ちに寄り添うようにしています。今後体調の変化がより多く出現する時期ですが、できる限り今のままで最後まで暮らして頂こうと考えています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

グループホーム ふれあいの里京田辺は、「かぐや姫の里」京田辺の閑静な住宅地に、小規模多機能型事業所(1階)と併設し互いに協働しながら運営されています。法人の理念、事業所の理念、接遇目標には「利用者優先、利用者中心」を掲げ、利用者一人ひとりのペースに合わせた見守りケアを支援されています。近く103歳を迎えられる利用者は手助けを要しながらも自力歩行を、96歳の方はキッチンで手伝われています。いつも利用者は、職員と共に廊下で「イチニイ」の号令で歩行訓練されています。利用者全員がグループホームで1年間過ごされた事にも繋がり、家族から大きい安心と信頼を深めている事業所です。事業所は毎月地域の清掃日に参加したり、地元の消防訓練参加時には、地域のAEDを事業所が保持管理することとなり地域との信頼関係を深めています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週火曜日の朝礼で、当番が理念の唱和の号令をかけ唱和後、3分間スピーチを行い、職員同志お互いをわかり合い同じ理念を共有するための努力をしている。	法人の理念に基づいた事業所の理念及び接遇目標を掲示している。小規模多機能型事業所との合同朝礼(毎火曜日)には、これ等を唱和し共有して実践に繋いでいる。職員は順番にケアの関わる自分の考えや取り組んでいる事などを3分間スピーチし、意見交換して互いを理解し合ったり理念の振り返りをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、自治会員として、地域の防災訓練、清掃などに参加している。また、運営推進会議には前年度区長・老人会長・民生委員等がメンバーとして参加して頂いている。小学校、保育所との交流がある。地域の催しにも参加している。	地域の消防訓練時に救命救急講話があった。この地域にAEDが無かったので、購入後はグループホームに設置し保持管理している。毎月1回の地域清掃には積極的に参加し、京田辺市政20周年記念区行事にも参加して地域交流を図っている。小学校の福祉学習や高校生の実習を受けたり保育園との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中にある唯一の福祉事業所として、小規模多機能、グループホームの理解を広め、何かあれば相談できる場所として、開けていこうと考えている。AEDは設置した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーに、前回区長、老人会会長、民生委員の方など参加して頂き事業所の取り組みを伝え、意見をいただいている。	会議には、市高齢介護課や包括支援センター職員、民生児童委員、前年度区長、老人会会長、家族等が出席し、小規模多機能型事業所と合同で実施している。事業所は、入居者状況・行事及び活動状況・事故等報告している。事故報告は原因及び対策を丁寧に記載し、この会議録は家族に配布し安心と信頼を高めている。水害・地震時の対応についても話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に市の高齢化とは連絡を取り指導して頂いている。	行政や包括支援センター職員は、運営推進会議に出席頂いており、事業所への理解を深めて頂いているので、双方共に話し合える協力関係を築いている。年度の目標達成計画は、直接担当窓口に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしてはいけないと認識しているので行っていない。	身体拘束については、新人研修と2年目研修で実施し、「身体拘束をしないケア」に取り組み利用者の有りのままの様子を見守ってケアしている。言葉の拘束は、その都度指導している。玄関の施錠は夜間のみとしている。法人の接遇委員会のメンバーによる抜き打ちチェックの仕組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は無い。しかし虐待の勉強会には参加しとらえ方を勉強していく為に日時は捉えているが、29年度はまだ参加していない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強していく為に日時は捉えているが、29年度はまだ参加していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明と納得は必須とわきまえている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議の場で家族が意見、要望を聞き、運営に反映している。	職員は、家族等の面会時、家族会、運営推進会議等の機会に意見や要望を聞き取る姿勢で臨んでいる。個人的な気付きや要望が殆どであり適時対応している。利用者からは、日常生活行動に関わる要求がありその都度対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見はできる限り反映するようにしている。	職員の意見や要望は、朝礼時やグループホーム会議(月1回)などで収集している。主にケアに関わっての活発な意見が多い。現在は業者搬入の食事に対し「昼食だけでも利用者の希望を聞き取って職員が作ってはどうか」の意見を反映させ利用者に喜んで頂いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスと共に、職能給評価を加えて評価している。個々の努力次第で自己の評価が給料に反映することを認識している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の研修受講状態を把握し、研修機会をリアルタイムに進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着連絡会議や、他施設の運営推進会議に参加し意見交換をし、サービスの向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居1か月は、経時記録を記入、その人をより早く理解する努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様には、入居後の暮らしぶりを細かく報告し、家族が安心できるように関わる努力はしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後は、家族が望まれる関わり方を受け入れ(他事業所の行事への参加など)協力しながら、見守っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方とは、一緒に暮らしており、お互いに協力をし合うような働きかけを行って、食事の盛り付け、片づけ、など役割を持って暮らして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員側がすべてするのでなく、家族様がして頂けることはしていただき、また、して頂くためのかわり方を工夫しているが、ほとんどの家族様が受診をして頂いている。レクリエーション等の参加も多い。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで関わってこられた方がたまに会いに来られるととても喜ばれておられる。一方では、会いに来たくても皆様が高齢になられ来られないと嘆いておられる方もいるが支援には繋がっていない。	この1年間は、グループホームの利用者全員元気で過ごされている。従って、馴染みの友人や知人等と利用者共に高齢化されて、互いに稀薄な傾向が進んでいる現状がある。事業所としても具体的な対応策を検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日の中で30分から40分の間「つどい」を開催し皆さんが丸い輪を作り集まって、体操、お話、歌などをして楽しむ機会を設けている。皆さんの顔が見えると安心されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されて他施設に行かれても、何かあればいつでも相談して頂くように説明している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の希望を声に出してくれる方は2名おられ、こちらから聞き出して反応してくれる方もあるが、この2名の方がリードして決めてくれる状態である。しかし、他の人の事も考えて決めて下さるので良い関係にある。	利用前に本人、家族、担当介護支援専門員等の関係者から「その人の成育歴、心身の状況、今後の生活の意向」等を聞き取りアセスメントしている。現在は、利用者の一人ひとりの高齢化・重度化が進み行動、仕草、表情などを細かく見守って記録し、その人の思いなどを推察して支援に繋げるよう努めている。リードくださる利用者は、他の利用者の事も考えて行動され良い仲間関係を維持している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に頂いた情報をもとに、日々のお話の中でその情報を確認したり、より深めたりして、その人をより知る努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々毎日の状況はその日の想いや、体調などで変化するため、その変化を見逃さずできるだけその人の状況に合わせるように考えて、見守り、対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的には、その方の介護保険更新時に、ご本人、ご家族、職員で現状の暮らし方をみつめ、希望や、思いが反映できているかを見直し、アセスメントを追加修正後、ケアプランを立案している。	初回アセスメントから暫定的な介護計画を作成して2週間の観察期間を設けている。その後担当職員はケアプランチェック表にモニタリングして、ケース会議で課題を分析している。サービス担当者会議では、医療情報なども勘案して本人や家族、介護支援専門員等の関係者が参加し現状に即した介護計画を作成し家族が確認している。介護計画は利用者の状況に伴い随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には詳細に記録できているが、ケアプランへの繋がりができていない。意識付けが必要である。		

京都府 グループホーム ふれあいの里京田辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日その日で気分や体調の変化で、言動も変化するため、その時その時の状態に合わせて、外出したり、場所を変えたり、その人が落ち着けて過ごせる環境を考え対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物や、小学校の運動会、幼稚園との交流会など、地域とのかかわりを出来るだけ多く持ち、地域の暮らしに少しでも交わり、味わい、楽しめる努力をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご家族、本人様の希望の場所を継続して受診してもらっている。そして、その方の急変時にはどのような対応をするかを決めていただいている。	全利用者は、今までの病状経過を周知し信頼関係を築いている「かかりつけ医」を選択し家族が同伴で受診している。受診時は介護支援専門員が利用者の状況提供を行い、医師の指示を受けて双方向で情報を共有している。緊急時は、家族の意向記録に準じて行っている。必要時には、訪問歯科を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約し、看護師が週2回来館し、利用者の健康管理に努めている。日々の体調に変化がある場合は、連絡し、指示を受けたり、受診介助をしてもらっている。また、小規模の看護師の協力もある。館長が看護師である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病状の確認を家族様に尋ね、状況によっては、主治医と直接面談して頂き、家庭で療養できる状態であれば、早期に退院して頂けるように病院に働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	館内では、ご家族様、ご本人様がふれあいの里京田辺で最期まで暮らすことをご希望される時は、「看取り」をさせていただく方針。	入所時に本人や家族から重度化や終末期の意向を聞き取っている。現在事業所は「家族から看取りの要望があれば支援したい」方針である。「看取りに関するマニュアル」を作成し、医療機関・関係者との連携を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、日々指導しており、職員も理解できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応については、年2回の防火訓練を計画しており、1回は地域の方の参加を必須としている。	消防署立ち合いのもと、運営推進会議開催の直前に会議の参加者も加って、地域と合同防災訓練と夜間想定訓練も実施している。地域の消防団との協力体制も築いている。出火防止対策では、毎月1回コンセンートの清掃と月3回キッチン周辺の確認をチェック表で実施している。備蓄は確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げているが、利用者中心の介護とは何かを、機会あるごとに指導しているため、尊厳を守ることを意識して介護を実践している。	理念や基本方針、運営方針に利用者中心の介護を提唱し、朝礼時に理念を唱和して認識を高めている。利用者一人ひとりの誇りやプライドを傷つけないように配慮し、その時々意思確認や様子を伺いながら利用者中心に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護は自立支援であり、自立支援とは何かについて、自己決定であると認識しているため、常にどんな時でも、自己決定できるような声掛け働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の日課はあるが、その日その日の気分や思いは変化するため、参加は自由であり、別なことをされるときは、そのようにできる様見守り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自由に選んでおしゃれができる様に見守っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の献立は、業者で決まっているが、おやつ作りや、日曜日、お誕生日、行事ごと、など、献立とは別なメニューで、利用者様と一緒に作り、楽しめるように工夫している。	委託業者による食事提供であるが、昼食のみ利用者の好みを聞き職員が作り利用者に喜んで貰っている。日曜日のみ他業者を委託し、別メニューを楽しんで貰う工夫もしている。敬老会は店から取ったり、お誕生日は外食やケーキ作り、オヤツ(ゼリー、ホットケーキ)もみんなで作って楽しんでいる。96歳の利用者は、職員と一緒に野菜を洗ったり皮むきをして残存機能を発揮し楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量を記録し一日を通じて確保できるように把握している。一日の摂取量が1/3以下になるときは、食べてもらえるものを提供し、続くようならかかりつけ医に報告栄養補助食などを出してもらおう。魚が嫌いな方には、他のものを提供するが現在はおられない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは実施するが、歯科医の指導も受けてその方に会う方法で口腔ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄方法に合わせて支援している。また、全介助の方でも、出来るだけトイレでの排泄を支援している。	利用者一人ひとりの排泄状況をチェックし、その人に合った時間や方法で自立に向けて支援している。誘導時に拒否される利用者には、タイミングを測りながら対応している。102歳の利用者や骨折治療後の利用者も自ら立ち上がり歩行介助でトイレでの排泄をされている。排泄行動の現状維持、継続に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排便状況が異なるため、排便状況は特に把握し、その方に合わせて、運動、マッサージなどを行い、ヨーグルト、牛乳、青汁など工夫している。なかなか頑固な便秘には、個々のかかりつけ医から、緩下剤などを頂き服用して頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定日はだいたい決めて入浴しているが、あくまでも予定で、入浴時にはご本人の意志を尊重し日をずらし、また、入浴時間も考慮している。	入浴は週3回としているが、利用者の意思を尊重し予定日時を変更するなど利用者一人ひとりに沿った支援をしている。ゆず湯などの季節湯や2人介助を要する利用者もあるが、ゆっくりと楽しんで貰っている。入浴を拒否される利用者にも出来る限り週3回の入浴の確保に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく眠れるようにとの願いで、騒音、室温湿度など環境を整える努力はしている。また、ここに合わせて夜間眠られなくても、お昼寝して頂くなどその方に合わせたかかわりはしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	健康管理を含めその方の内服等の管理はその方に合わせて実践している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の持ち味や能力を生かした役割を考慮し工夫しながら、楽しく生き生きと過ごせるよう支援している。		



京都府 グループホーム ふれあいの里京田辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物に同行して頂いたり、お誕生日外出、遠足、四季折々の花見(桜、紫陽花、コスモスなど)の計画をたて、家族様も誘い外出している。	利用者は、職員と一緒に週1~2回食材や日用品の購入に出掛けている。近所のお寺や公園にも出掛けて日光浴をしている。お花見や遠足には家族の協力を得てみんなで楽しんでいる。行きたい場所を希望される利用者は殆ど無いが、利用者の状態を考慮しながら可能な範囲で支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使える方には、お金を家族様から預かり買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもできるように支援している。 手紙は現在かける方がおられない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その日の天候により、室温湿度の調節、出来るだけ自然の外気温に触れる環境づくりに心がけている。また、壁などの装飾は出来るだけ季節感が味わえるようなものに工夫している。	採光の良いリビングの南側は、カーテンで直射日光を遮っている。大型の空気清浄機や加湿器を設置し良好な住環境に配慮している。EM菌液で清掃されており、トイレ、浴室等も臭気は無く清潔感がある。昼食時は懐かしのメロディーがラジオから流れ穏やかな雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、机といす、またはソファー、またはベットがあり、個々に思い思いに座ったり寝たりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、家族様ご本人が好きなもの、なじみの家具、クッションなどを置かれて、「私の部屋」づくりをして頂いている。	居室には、使い慣れた家具などを持ち込み、テレビや時計を置いている。写真や好みのぬいぐるみ、お誕生祝に頂いた色紙などを飾り、ホット安らぐ「私の部屋」を工夫して過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋の入り口には、個々が自分の部屋とわかるようなもので飾り、自分の部屋に戻り自由に過ごして頂くのが基本にして見守りを行っている。環境整備には十分注意して安全を確保している。		